

## 恐竜博物館（増築・改修）

2000年の開館から20年以上経過し、当初25万人だった年間来館者数は90万人を超え、県を代表する観光名所の一つとなった。2024年の北陸新幹線福井・敦賀開通や中部縦貫道の効果を最大活用した観光誘客のため、「オールシーズン体験可能な博物館にフルモデルチェンジ」をコンセプトに、満足度を維持向上し、研究・情報発信の拠点として未来に続く博物館とするため、増築・改修による機能強化を行った。

### 建築概要

---

#### ―黒川紀章の建築哲学の継承

恐竜博物館は、「共生の思想」や「アブストラクトシンボリズム」を謳った黒川紀章の代表作の一つである。既存博物館は、回転楕円体（常設展示室）、楕円推形（トップライト）、楕円（エントランス庇）など世界に共通する美しい形を用いて象徴性を表現し、グローバルとローカルを同時に実現している。例えば、回転楕円体はこの勝山の地に置くことで、はじめて恐竜のタマゴに感じられる。この建築哲学を継承し、既存棟の象徴である回転楕円体の相似形を増築棟の中央に配置し、新たなランドマークとなるよう計画されている。既存棟は、現況の高低差のある地形を、建物を埋めることで積極的に利用し、自然と一体化した姿が表現されている。増築部もこの手法に則り2層分を山に埋め、環境と調和した建物としている。

#### ―建築計画

地階には、幅16m高さ9mの迫力ある3面映像が体感できる特別展示室と、小タマゴや連絡通路から望める2層の収蔵庫を配置した。既存建物外壁を耐震改修し、2層にわたり連絡通路を設け、一体的に利用できる計画とした。既存棟を改修し整備したダイノライブラリー（図書室）、増築棟3階である地上階には、化石研究体験室や多目的ホールなどを設け、様々な形で恐竜を学べる仕掛けが散りばめられている。また、既存棟ではレストラン、ショップ、それぞれ配置を見直すとともに来館者の増加に対応できるよう面積を拡張している。

#### ―設備計画

電気、空調、給排水衛生設備に関して、増築部だけでなく既存棟を含めた整備を行っている。以下に特徴ある設備計画を記載する。

##### （電灯設備）

小タマゴやホワイエなど意匠との調和を求められる空間には間接照明や建物と一体化したような形状の器具を採用し、落ち着いた空間を実現している。

##### （熱源設備）

増築部分の熱源システムは、汎用性・省エネルギー性に優れた電気式空冷ヒートポンプモジュールチラーを採用した。今回の工事に伴い既存部分の熱源システムも一新することとした。既存の熱源は氷蓄熱システムを採用していたが、夜間の蓄熱時間帯は建物の空調が停止する。リニューアル後想定された営業時間の延長にも対応できるように、増築部分と同様の熱源システムとした。

##### （防火設備）

3層吹抜けのエントランス・ホワイエには放水型スプリンクラー設備とし、収蔵庫及び特別展示室は、収蔵品、展示品への水損を避けるため不活性ガス消火設備を採用している。

## 建築データ

所在地	勝山市村岡町寺尾51-11
主要用途	博物館
設計者	建築 (株)黒川紀章建築都市設計事務所 構造 (株)織本構造設計 設備 (株)建築設備設計研究所
施工者	(増築) 建築 (株)熊谷組福井営業所、大北久保建設(株)、大野建設工業(株)JV 電気 河上電機(株)、テラオライテック(株)、合同電機(株)JV 空調 テラオライテック(株)、(株)梅井設備工業、(株)サカイエステックJV 給排水衛生 (株)シマキ工業、山二工業(株)JV 昇降機 フジテック(株)北信越支店 (改修) 建築 (株)豊栄建設、(有)北八建設、大北久保建設(株) 電気 椿坂電機(株)、前田電気(株) 機械 明電設備(株)、(株)竹澤設備 自動制御 (株)サカイエステック、(株)竹澤設備 空調熱源 (株)梅井設備工業、北陸設備工業(株)
敷地面積	1,370,000 m <sup>2</sup>
建築面積	15,190.85 m <sup>2</sup> (増築 3,446.15 m <sup>2</sup> )
延床面積	25,317.33 m <sup>2</sup> (増築 6,989.26 m <sup>2</sup> )
階数	地上3階、地下1階
構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
工期	2021年10月~2023年6月









